

スポーツ学の10年を振り返って —スポーツ情報戦略の立場から—

豊田 則成¹⁾ 望月 聡¹⁾ 高橋 佳三¹⁾ 志賀 充¹⁾

Considering of Sport Study during the past decade From the Perspective of Sport Intelligence

Norishige TOYODA, Satoru MOCHIDUKI, Keizo TAKAHASHI, Mitsuru SHIGA

Key words: sport intelligence, information technology, scientific analysis, feedback system, and coaching support.

はじめに

びわこ成蹊スポーツ大学が開学し、「スポーツ学」を謳いはじめて10年の節目にスポーツ情報戦略の立場からその足跡を振り返ることは、大きな意味がある。スポーツ情報戦略コースは、開学4年目にして開設された新しいコースであり、その教育・研究活動は、未だ揺籃期にある。まだまだ多くの可能性を秘めた学問領域であることに相違はない。以下には、稚拙ではあるが、これまで本学スポーツ情報戦略コースが取り組んできた一端を披瀝する。

従って、ここでは、スポーツ情報戦略コースが本学において果たしてきた役割について、1.スポーツ情報戦略の可能性、2.スポーツにおける情報戦略の役割、3.スポーツ情報戦略の挑戦、4.スポーツ情報戦略に関するネットワークコミュニティの構築、といった4点から論じてみたい。

1. スポーツ情報戦略の可能性

これまでにも、本学におけるスポーツ情報戦略コースの位置づけについて論じる機会が

あった(豊田ほか, 2007; 豊田, 2008; 豊田, 2011; 豊田ほか, 2011)。まず、豊田ほか(2007)は、本学研究紀要の研究報告の中で、「スポーツ情報戦略の可能性」について次のような観点からアプローチしている。そこでは、1) スポーツ情報戦略の現状、2) 用語の整理、3) 本学スポーツ情報戦略コースの目標、4) 情報戦略コミュニティにおける本学の役割、5) 本学のスポーツ情報資源、などについて検討した。特に、4) 情報戦略コミュニティにおける本学の役割については詳しく触れ、①学術としての「スポーツ情報戦略」の検討、②教育カリキュラムの計画的実施、③スポーツ映像分析の充実化、④スポーツフィールドへの積極的還元、⑤情報発信モデルとしての役割、⑥スポーツ・インテリジェンスの中継点など、スポーツ情報戦略コースが大学内外へ向けて果たすべき課題を明確に設定した。

2. スポーツにおける情報戦略の役割

次に、豊田(2008)は、「スポーツ学のすすめ」の中で、「スポーツにおける情報戦略の役割」と題して、1) スポーツ情報戦略とはな

1) 競技スポーツ学科

にか、2) スポーツ・インテリジェンスという発想、3) 情報戦略の要素と資源、4) スポーツ情報戦略コミュニティの構築、などについて解説した。

そもそも、スポーツ情報戦略とは「競技力向上に有用な情報を、戦略的に活用しようとする営み」(久木留ほか, 2007)に他ならない。そして、本学のスポーツ情報戦略コースにおける理論的構造は、【〈科学的分析〉+〈還元〉=〈スポーツ指導支援〉】と表現することができる。まず、「科学的分析」(scientific analysis)とは、スポーツフィールドに散在する科学的データを一次情報と位置づけ、それを「科学的分析」によってより高次な情報へと加工することを意味している。これを実現するためには、最新のIT (Information Technology) を駆使し、分析・検討することが強く求められる。

また、昨今は、「情報社会」と称されて久しく、世の中に氾濫する情報の多くは、それを利用する側が取捨選択し、有効活用することが求められる。情報は、人々がこの社会において暮らしていく上で、必要不可欠なものとなっている。しかしながら、その情報を有効活用するために取捨選択していくことは避けられ得ず、情報を活用する側にそれ相当な基準(倫理観や価値観などを含む)が必要であることは否めない。情報を取り扱う上で「正しく」あることは、以前に比べて情報を容易に入手できるようになったからこそ、却って困難な課題となっている。

スポーツフィールドにおいて、そのような「正しさ」を獲得することは、広義の「科学性」を担保することに相違ない。とりわけ、広義の「科学性」とは、手続きやプロセスの透明化をはかることに重きを置き、情報の公共性を高めることによって担保できる。そのような意味合いを鑑みながら、我々は、より高次へと加工した情報を「正しく」社会へ、特に、スポーツフィールドへ還元せねばならない。すなわち、「還元」(feedback)とは、

スポーツフィールドへ如何にして正しく情報を提供するかを命題としている。

3. スポーツ情報戦略の挑戦

そして、豊田(2011)は、本学研究紀要の課題研究論文(スポーツ学再考)の中で、「スポーツ情報戦略の挑戦」と題して次のような観点で論じた。それは、1) スポーツ情報戦略とは、2) スポーツ情報戦略が果たす役割、3) スポーツ学を科学する立場、4) 今後の展望、であった。特に、3) 3) スポーツ学を科学する立場については、①研究の透明性を確保する、②研究成果を視覚化する、③自覚的な取り組みをするなど、スポーツ情報戦略における科学性を担保するための理論的感受性(theoretical sensitivity)について触れたといえる。

また、スポーツフィールドへ有効なフィードバックを為すためには、スポーツフィールドを捉える「眼差し」が問われることになる。スポーツ情報戦略コースの教育目標は、この「眼差し」を豊かに育むことにもある。その柱に、「こころ」(豊田が担当)、「戦術」(望月が担当)、「映像」(志賀が担当)、「動き」(高橋が担当)といった領域を設定し、科学的なアプローチを駆使しながら、スポーツフィールドへ正しくフィードバックすることに努めていかねばならない。

4. スポーツ情報戦略に関するネットワークコミュニティの構築

最後に、豊田ほか(2011)は、本学研究紀要のアカデミックアワー研究報告の中で、スポーツ情報戦略に関するネットワークコミュニティを構築すべく、1) スポーツ情報戦略のコンセプト、2) ネットワークコミュニティの構築、3) スポーツ指導支援を目指す、といった観点から検討した。特に、3) スポーツ指導支援を目指すことについては、まだまだ議論の余地があるとの前提から、スポーツ情報戦略は「スポーツ指導支援(Coaching

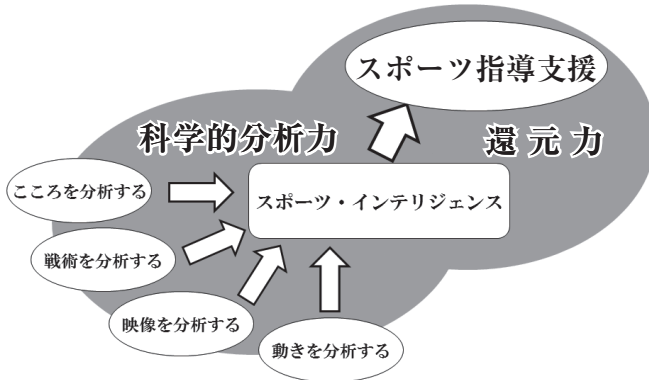


図1 スポーツ情報戦略コースのコンセプト

Support)」を目指すスポーツ学専門領域であると位置づけている(図1)。

また、コース開設当初から、国立スポーツ科学センター(以下、JISSと称す)の情報戦略部から多くの支援をいただいた。JISSとの共同作業なくして、今日の本学スポーツ情報戦略コースはあり得ないといえる。

まとめ

これまでに、スポーツ情報戦略活動については、オリンピックサポートの領域から様々な報告が認められる(久木留, 2008; 久木留ほか, 2008; 2009; 2010)。また、教育プログラムとしてのスポーツ情報戦略活動も報告されている(阿部ほか, 2010)。これらの中で扱われる「スポーツ情報戦略」のコンセプトと本学のコンセプトは、若干異なるようである。いわば独自のであると称しても良いのかもしれない。冒頭でも触れたが、本学における「スポーツ情報戦略」は、まだまだ揺籃期にある。これまでコースコンセプトを模索する中で明らかになったことは、その到達点が「スポーツ指導支援」にあるということであった。

今後も、この「スポーツ指導支援」の観点から科学的知見を蓄積していくことで、スポーツ情報戦略コースの充実を図っていきたいと考えている。

【文献】

阿部篤志・石丸出穂・藤本晋也, 粟木一博・太田四郎・勝田隆(2010) スポーツ情報戦略活動の教育プログラム化に関する研究～宮城県高校総体における利府高校を演習の場として展開された「スポーツ情報戦略論演習II」の試みについて～. 仙台大学紀要, 41(2): 241-248.

久木留毅(2008) スポーツ情報戦略に関する一考察II: スポーツ界に必要な政策形成能力. 専修大学体育研究紀要, 31: 9-15.

久木留毅・相澤勝治・山下修平・阿部篤志・勝田隆(2007) スポーツ情報戦略に関する一考察: 競技スポーツにおける情報戦略の定義づけ. 専修大学社会体育研究所報, 55: 21-28.

久木留毅・嘉戸洋・相澤勝治・佐藤満(2009) スポーツ情報戦略に関する一考察IV: コーチとスポーツ医・科学スタッフに必要な情報戦略. 専修大学社会体育研究所報, 32: 11-16.

久木留毅・山下修平(2008) スポーツ情報戦略に関する一考察III -第29回オリンピック競技大会(2008/北京)におけるJOC情報戦略チームの活動. 専修大学社会体育研究所報, 5: 31-37.

久木留毅・山下修平・白井克佳(2010) スポーツ情報戦略に関する一考察V: 情報戦略の視点から見た第1回ユースオリンピックゲームズ. 専修大学体育研究紀要, 34: 1-10.

豊田則成・志賀充・高橋佳三(2007) スポーツ情報戦略の可能性. びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要, 5: 159-165.

豊田則成(2008) スポーツにおける情報戦略の役割. びわこ成蹊スポーツ大学編 スポーツ学のすすめ. 大修館書店: 東京, pp. 174-178.

豊田則成(2011) スポーツ情報戦略の挑戦. びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要, 9: 45-48.

豊田則成・望月聡・高橋佳三・志賀充(2011) スポーツ情報戦略に関するネットワークコミュニティの構築. びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要, 9: 165-166.